

# 地域の伝統と共に「記憶」を未来へ

## 皆田和紙保存会

基本データ  
中世から昭和にかけて上月地域で行われてきた製紙産業「皆田和紙」の保存と技術の伝承を目的に、平成16年から活動している。

住所：佐用郡佐用町上月373番地（上月歴史資料館）

TEL：0790-86-1616

<https://local-history-museum-86.business.site>



山本幹雄会長（前列左）はじめ、会の皆様と

### 要点

- 皆田和紙は、楮を原料とした伝統技術で手作りされる
- 地元の小中高生に出前授業を実施し、郷土の記憶や先人の技術を伝える
- いかに体験者から後継者へと繋げていくかが重要

#### — 保存会の取組内容は

毎年8月9日、上月城の麓に鎮魂の行燈に優しい灯が灯る。平成21年に佐用町全域で発生した水害によって失われた魂の鎮魂を祈る行事だ。楮を原料とした伝統技術で手作りされる「皆田和紙」の行燈は、皆田和紙保存会の皆さんを中心に子供達も参加して心を込めて作成されている。地元の小中学校や高等学校へも出前授業を実施し、子供たちに郷土の忘れてはいけない「記憶」と共に先人の技術や知恵を伝えている。故郷を愛する心が未来の故郷を作る活力となることを願って。



取材メンバーも皆田和紙のうちわ作りに挑戦しました！

#### — 今後の展望は

西播磨の山城巡りの御城印にも皆田和紙が使用され、体験に来られる方も増えている。体験された方の中から後継者が現れてくれることが課題だ。



紙すきの様子



闇夜に浮かぶ皆田和紙の行燈（11月・清林寺）

### 感想

紙すき体験をさせていただきましたが、見た目より力が必要である上に、繊細な感覚が求められる作業だと感じました。この伝統文化が500年以上にわたって続いていることに感動するとともに、今後も継承されてほしいと思います。